

答 辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみはじめ、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、ご多忙の中、堀内学長をはじめ、諸先生方、職員の皆様、ご来賓のご臨席を賜り、このような素晴らしい修了式を挙げていただき、修了生一同、心より感謝申し上げます。また、皆様からお心のこもった激励のお言葉を賜りましたことを、重ねて御礼申し上げます。

私たちは、本日をもちまして、佐久大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程の全課程を修了し、この素晴らしい学び舎から新たな一歩を踏み出します。

私は、本学の看護学部を卒業し、ちょうど十年という節目の年に大学院を修了することとなりました。この十年間の臨床実践では、急性期、手術看護を中心として経験を積み、周術期管理チームの看護師として活動をしてきました。その中では、新人教育、現任教育、役職者として手術部の管理や運営に携わり、安全で質の高い医療や個別性のある看護の提供、手術の時だけでなく入院前から退院後までの継続看護など、医療・看護の質の維持、向上について考える機会が多くありました。そして、よりよい看護を提供するために日ごろから看護研究に取り組んでおりましたが、数値化することの面白さは感じられても、数字を分析すること、分析した結果を正確に解釈すること、得られた結果について考え抜くことの困難さを感じ、もっとエビデンスに基づいた研究ができるようになりたいと感じていました。

入学してからの二年間は、先生方や様々な知識や経験を持つ院生の仲間と貴重な時間を過ごしました。講義では、数多くのプレゼンテーションの経験をし、看護理論、管理や教育、などの学修を深めることができました。先生方や院生の仲間との濃厚なディスカッションでは、臨床で経験した具体的な事例と理論を照らし合わせて考えながら、自己の価値観を言葉として表現し、他者の価値観を知ることで、自分自身を客観的に観察することができました。講義だけでは時間が足りず、休憩などの空き時間にも語り合ったこともあり、かけがえない財産となりました。

研究では、院生それぞれが、経験や理論をもとに研究課題と向き合ってきました。私は、大学院を修了した後に、どのように活動し、臨床現場に還元したら良いのだろうかと考え、研究に取り組みました。テーマは、「一般病院に勤務する大学院修了看護職の職務満足度・レジリエンス・概念化能力の関連性」とし、結果では、大学院修了看護職のレジリエンスと概念化能力には正の相関があり、レジリエンスと概念化能力は職務満足度とも関連していることが明らかとなりました。また、大学院修了看護職は、大学院で高められたレジリエンスや概念化能力を発揮しながら、根拠に基づいた看護の提供、倫理調整、スタッフの教育や指導、研究と学会参加、組織管理を行っていることも明らかとなり、臨床現場において大学院修了看護職が活動するための資料となると考えております。研究の課題を見つけ、計画書

を作成するまでの大変さや、分析において有意差があるのかという不安もありましたが、研究することの面白さを感じながら夢中になって取り組むことができました。

今、振り返ると、先生方や院生の仲間と研究や臨床実践について話した時間があってこそ、面白いと感じることができたのだと思います。

ドロッカーは、成果を上げるためには、ヒト・モノ・カネの三つよりも、情報や経験、理論といった知識を磨き続けることが重要であると述べ、知識労働者の中でも高精度な成果を上げ続ける者をプロフェッショナルと位置付けています。私たちは、大学院において高度な看護学に関する理論や技術を学修し、文献検索や他者との関わりから情報を得る習慣を身に付けることができました。

この春から、大学院を修了した看護職として、それぞれの道を歩み始めますが、新たな道には、いくつもの試練があると思います。本学で得た、知識、論理的、かつ、柔軟な思考力、全ての学修を活かし、看護学の発展に貢献できるよう、日々精進を重ね、邁進して参ります。

最後になりますが、本日に至るまでの長い間、学問や研究への取り組みにおいて、多岐にわたるご指導をいただきました諸先生方、学生生活を多面的にサポートして下さった職員の皆様、ご配慮いただきました職場の皆様、ともに切磋琢磨してきた院生の仲間たち、そして暖かく見守ってくれた家族に、修了生を代表して、改めて心より感謝申し上げます。佐久大学の益々の発展と、ご臨席を賜りました皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、答辞といたします。本日は誠にありがとうございました。

令和6年 3月 15日

佐久大学 大学院看護学研究科看護学専攻

第11回修了生代表

上原 雪子